

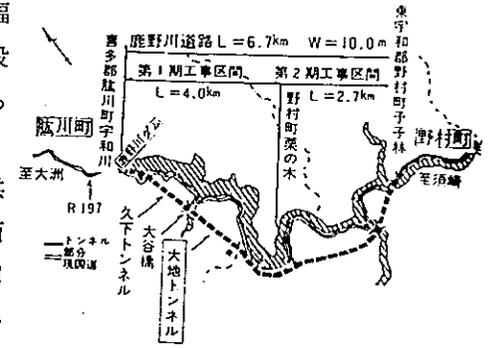
③ 国道197号鹿野川道路

野村町と肱川町を結ぶ国道197号鹿野川道路（野村町予子林から肱川町宇和川間の6.7km）は、幅員が狭くカーブも多いため、建設省大洲工事事務所が昭和60年から改良工事に着手した。

当道路は、平成元年より部分供用を順次開始し、現在、野村町西より肱川町宇和川間約4kmが供用中である。残る2.7km区間についても予子林地区、宇和川地区、栗木トンネルの工事を進めている。

平成6年度末迄の事業費は155億円、進捗率は75%で全線開通は平成11年度の見込である。

〔鹿野川道路平面図〕



④ 主要地方道大洲・城川線などの国道昇格

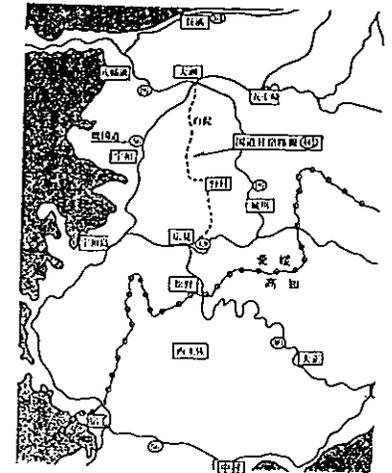
野村町の中心を縦断する主要地方道大洲・城川線などの国道昇格が、陳情開始以来8年ぶりに実現した。

大洲・中村線の国道昇格は、56年4月20日に開かれた国の道路審議会（建設大臣の諮問機関）総会で原案通り答申、同月24日の閣議で正式に県内関係4路線（全国83路線）とともに昇格した。

国道の路線名は441号で、四国西南地域の内陸部を縦貫する主要路線で、将来、沿線市町村の産業と文化の発展に大きく寄与するものと思われる。

昇格が決まった国道441号については、

国道441号概略図



## (3) ダム建設

## ① 鹿野川ダム

鹿野川ダムは、四国西南総合開発事業の一環として、大洲市を中心とし、肱川下流地域の治水（洪水調節）および利水（発電）の多目的ダムとして建設省直轄事業で、昭和28年(1953)10月に調査を開始し、同31年に本工事に着手、34年3月に完成したものである。35年



鹿野川ダム

2月に建設省から移管され、以来、愛媛県が管理をしている。

型 式 重力式コンクリートダム

堤 高	61m
堤 頂 長	167.9m
集水面積	513km <sup>2</sup>
総貯水容量	48,200千m <sup>3</sup>
有効貯水容量	29,800千m <sup>3</sup>
ダム建設費	3,015,000千円
発電出力 最大	10,400kWH
年間目標供給電力量	38,000,000kWH
使用水量 最大	28m <sup>3</sup> /S
発電所建設費	912,000千円

## ② 野村ダム

肱川下流域の治水の安全度をさらに向上させるため、昭和48年(1973)に肱川の工事実施計画が改訂され、基本高水を6,300m<sup>3</sup>/Sとし、そのうち上流ダム群により1,600m<sup>3</sup>/Sに調整することとなった。

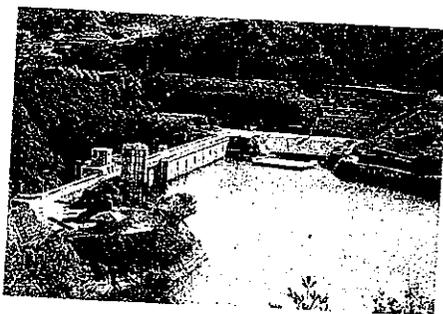
一方、南予地区海岸部における水不足解消を図るため、肱川からの分水を行う目的で、肱川上流に多目的ダムである野村ダムを建設したものである。

この総事業費は286億円であり、昭和46年度に実施調査に入り、48年度に工事に着手、57年3月に完成した。

#### 型 式

重力式コンクリートダム

堤 高	60m
堤 頂 長	300m
集水面積	168km <sup>2</sup>
総貯水容量	16,000千m <sup>3</sup>
有効貯水容量	12,700千m <sup>3</sup>



野村ダム

利水関係では、宇和島市など2市8町

ミカン畑 7,200ha 年間最大 27,800,000m<sup>3</sup>

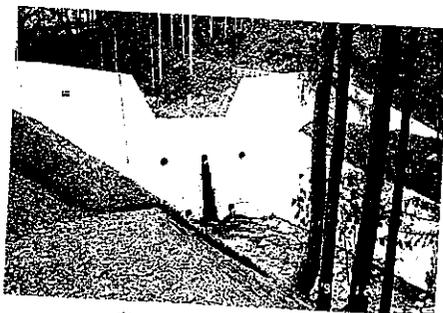
給水人口 17万人 ッ 8,590,000m<sup>3</sup>

治水 56.5%、灌漑 32.6%、水道 10.9%である。

### 3 治山事業

治山事業は、土砂による災害を予防し、また災害の復旧を行うことによって国土の荒廃を防ぎ、土地の生産力を高め、産業の発展を促すことを目的とする事業である。

このような林地を対象に国と県では、膨大な予算を費やして、予防と復旧に努めている。



鳥鹿野奥治山ダム

行政上は農林省林野庁の所管に属し、具体的には県とともに保安施設事業および地滑り防止工事などを実施している。事業内容は、